

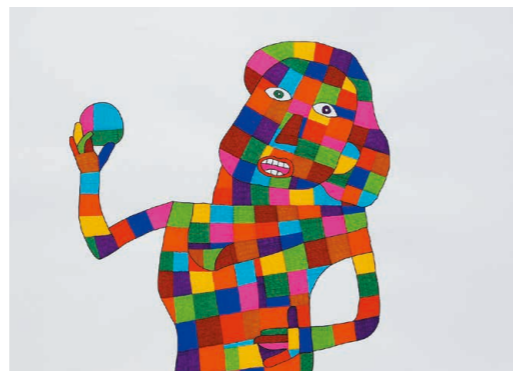
## INFO 1

### グッとくる! 芸術の秋、展覧会とフォーラムのお知らせ

この春に設置された北海道障がい者芸術文化活動支援センター「福祉とアーツ北海道」。北海道にお住いのみなさんの芸術活動を後押しするよう、研修や相談会、イベントなどを実施します。「北海道障がい者のアート展」もその一つ。今年度は11月21～24日札幌市民ギャラリーで開催します。10月18日(金)まで申込受付中です。

また、この「福祉とアーツ北海道」をもっと知ってもらうために特別展とフォーラムを同時開催します。「グッとくる:日本のアール・ブリュット」展は、テレビでおなじみの作品や最近の若手注目株など、全国のグッとくる作品が集まります。

11月23日(土)のフォーラムでは、今、変わりつつある障がいのある人の芸術文化をとりまく状況と今後の展望について、美術専門家や福祉分野、企業のお話なども交えながら語ります。ぜひお楽しみに!



「北海道障害者のアート展」  
ご案内

## INFO 2

### Pâtisserie Ruelle

### 季節限定かき氷と秋の新商品のお知らせ

この夏から季節限定でかき氷を始めました。生クリームやアーモンドチュールを飾った、ケーキ屋ならではのかき氷に仕上げております。Ruelleではイートインスペースがないため、外のベンチで召し上がっていただくこととなりますが、暑い日に外で食べるかき氷は格別に美味しいです!今年の販売はもうすぐ終了してしましますが、来年以降も販売を予定しています。

また、秋の商品もご紹介いたします。9月はさつまいもを使ったシュークリームやプリンを販売し、10月は野布施農園のかぼちゃを使った商品の販売を予定しております。店内装飾やギフトも秋らしい装いに変わりました。Ruelleで秋の訪れを感じてみませんか?近くにお越しの際は、ぜひご来店をお待ちしております。



## Donation 寄付について

### ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

### ◎社会福祉法人への寄付について

- 1 個人の場合
- 2 法人の場合
- 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となることがありますのでご相談ください。  
※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからのご寄付を受け付けています。  
超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切にする福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。  
ぜひ活動へのご支援をお願いします。

### 領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームからご依頼ください。

TEL:0133-22-2896  
<https://yu-yu.or.jp/contact/>



# YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



ゆうゆうの今を伝える広報紙



苫小牧市東開文化交流サロン 藍の生葉染め体験

YOU YOU MAGAZINE 2024 SUMMER

デザイン/株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行/社会福祉法人ゆうゆう 広報 tel:0133-22-2896 mail:info@yu-yu.or.jp

2024 / 9 SUMMER





## 伝統を守り、新しい文化をつくる担い手に

夏真っ盛りの8月中旬。苫小牧市東開文化交流サロンでは、東開町内会との共催で盆踊り大会を開催しました。盆踊りの要ともいえる太鼓の叩き手がないと町内会の人困っていたところに、立候補してくれた就労支援の利用者さんは、約1か月前からの練習と、日々のイメージトレーニングに励み、当日大活躍!終了後には色んな人にたくさん声をかけてもらい、達成感ある良い表情をされていました。普段とはちょっと違う場面で輝けた経験が、自信にもつながって、また、毎日のお仕事でも一段とキラキラ活躍してくださっています。これからも、地域の中で利用者の皆さんが活躍できる東開文化交流サロンでありたいと思います。



## 和寒町ふくしワークキャンプ

8月5日から6日にかけて、ふくしワークキャンプを開催しました。これまでゆうゆうが道内の学校で出前授業を行い、福祉分野に興味を持った学生や、ワークキャンプや和寒町に興味を持った学生など、小学生から大学生まで幅広い若者が参加しました。1泊2日で、和寒町内の学生と一緒に保育所や高齢者のグループホームでの職業体験や農業体験を行い、公共施設や広大な畑の見学を通じて、町民の暮らしの風景を巡りました。また、「和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト」と連動し、学生が感じた和寒町の良いところをもとにキャッチコピーを考え、町長や町の方々に伝える機会を設けました。学生からは「町民の繋がりが強いことがすごい」「地域の方に気さくに挨拶してもらった」「福祉は一部の人だけで一部の人をサポートするというより、多くの人と一緒にサポートできる環境を作ることだと感じた」などの声が寄せられました。町民の当たり前が参加者にとって学びとなり、和寒の学生も自分が暮らす町について再発見の機会となりました。今後も地域福祉や現場のリアルに触れる機会を提供し、学生が自ら考え行動していくきっかけとなるプログラムを実施していきます。



## Social Apartment大麻こぼとの魅力

Social Apartment大麻こぼとは、普段利用者の方が生活するプライベートな空間と、交流の場となるパブリックスペースがあります。コロナの流行以降、パブリックスペースの貸出は中止していましたが、今年度から地域の方々や子供たちが気軽に利用できる空間を目指し、Social Apartmentの具現化に取り組んでいます。8月には小学生を対象に七夕や粘土イベント、夏休みの宿題に集中して取り組める場を提供しました。まずは大麻こぼとのパブリックスペースを知ってもらう為、こちらからイベントを企画しました。イベント後には、貸館利用の申し込みもありました。また、大麻こぼには車いすの方でも利用できる広々とした浴槽があります。地域にお住まいで普段ご自宅での入浴が難しい方が定期的に利用されています。貸館の利用料や入浴の利用料は、大麻こぼと入居者の光熱水費に充てており、入居者の負担軽減となっております。



## 子どもたちが本気で遊べるぺこちゃん夏祭り!

前日の雨が嘘のような恵まれた天気のもと、ぺこちゃん夏祭りを無事に開催することができました。会場では、「あ!○○さん、こんにちは!」「元気?」など、ご近所のお母さん同士の挨拶や、友達を誘って意気揚々と「わー」と叫びながら自転車でやって来る子どもたちの姿が見られました。お祭りは、身近な人と会える場所であり、子どもたちの楽しみの場になっていました。そして、イベントを企画・実行してくれるぺこちゃんサポートクラブの皆さん。わんぱくな子どもたちが少しいたずらをして、否定せず優しい眼差しでそっと見守ってくれていました。大学生や若手スタッフも子どもたちにとって身近な存在で、年齢が近いお兄さんお姉さんたちと一緒にたくさん笑い、子どもたちも安心して遊んでいました。そんな子どもたちが本気で遊べるお祭りを、今後も続けていけたらと思います。



## 子どもたちの成長と新たな挑戦

今年のamaririsuの夏休み支援は、一味違ったものとなりました。例年の海やお楽しみイベントに加え、サイゼリヤへの外食イベントなど、少し当別から離れた場所への外食にもチャレンジしました。外食イベントでは、普段あまりご飯に興味がないお子さんが、外食先でバクバクご飯を食べるといふ、職員が驚く嬉しい出来事がありました。また、今までは1~2時間の短時間利用が多かったお子さんが、6月頃から少しずつ利用時間を延ばしていくチャレンジをし、夏休みには5時間amaririsuで過ごせるようになりました。今後もamaririsuの活動を通して、子どもたちの成長や新たな一面を見つめることができるよう、関わっていきたく思います。



## 新たな仕事開拓 ~夏~

例年、夏場にはあちこちで屋外バーベキューをしている光景が見られます。ゆうゆう内でも、視察者が来られた日や学生ヘルパーとの交流会などで、よくバーベキューでおもてなしをしています。しかし、買い出しや焼き台のセットなどの準備が大変という声をよく耳にしました。そこで、よきによきの利用者の中でお買い物好きな方には買い出しを、力持ちの方には薪やコンロ運びをお仕事として取り組めないか試行的に実施しました。もちろん、よきによきで育てた野菜やお米も活用し、おいしくて心のこもったバーベキューを提供しました。特に道外から来られた方には大変好評でした。

※準備費用として会費の中から一部代金をいただき、利用者さんの工賃に充てています。



## 令和6年度共生型ボランティア養成講座開講!

この講座は、0才から最高100才まで(制限なし)の方々を対象に、制度では補えない困りごとを地域住民で支え合う仕組みとして、4つの有償ボランティアを育成する講座です。地域住民、学生、地域で働く方々18名が受講しています。対面受講が難しい方は、YouTube配信でも受講可能となっております。誰かのちょっとした想いと行動が、誰かの少しの困りごとをお手伝いできることで、幸せな時間を共有できる仕組みです。家事やお話し相手、外出時のお手伝いなどを担っています。困りごと以外にも、高齢や身体の不自由さから諦めていた趣味や楽しみを一緒に行ったり、赤ちゃんを見守ったり、保育園まで送迎したりしています。



## 共愉するまちとはどんなまち?

人口約2800人の町、和寒町。現在、ゆうゆうではこの和寒町で特別養護老人ホームの建て替えや、あらゆる人が住み続けられる地域福祉の構築を目指し、「和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト」を進行中です。今回、先進的なケアの実践や地域住民に親しみのある建築を学ぶため、神奈川県にある社会福祉法人愛川舜寿会へ視察に行きました。保育事業や高齢事業など、ゆうゆうではまだ取り組んでいない事業が多くあり、それぞれの拠点がユニークな建築でとても刺激的でした。特に印象的だったのは、利用者さんだけでなく職員の方々も笑顔が多いことでした。ケアの哲学や建築の仕組みが皆さんの笑顔を作り上げていました。我々のプロジェクトの基本理念にある「共愉するまち」を、一足先に体感したような視察となりました。

